

魅力や苦勞聞き 働く意義考える

長峰中2年生が「職業講話」

に向けて職業観を広げた。

学校運営協議会（熊谷洋会長）が企画。「働いている人からじかに話を聞いて学んでほしい」との思いが学校と一致。菓子店、製造業、病院、考古館、保育園、美容室、専門店、ラーメン店の協力得て実現した。

諏訪中央病院からは看護師と理学療法士7人が参加した。仕事の

茅野市長峰中学校で21日、2年生（127人）を対象とした第1回「職業講話」があった。地域のは「相手の気持ちに寄り添える事業所から講師を迎えて仕事の魅力ややりがい、苦勞話などを聞（き）き、働くことの意義を考える目的で初めて実施。民間や公共の8事業所がブースを設けた。生徒は8グループに分かれて20分ずつ4事業所を回り、今月下旬の職場体験

立つ「必ずできることを信念に持つていけば達成できる」などテーマをバースしていた。

生徒の濱崎士さんは「苦手はあるが、得意なことを伸ばすという話は参考になった」と、松岡葉奈さんは「孫が喜ぶ顔を楽しみにケーキを作っている話を聞いて、やりがいを持っている仕事をしたいと思った」と話していた。（武井葉子）

内容や資格、医療の道を選んだきっかけなどを説明。求められるのは「相手の気持ちに寄り添える人」、やりがいは「ありがたの言葉」など話した。



看護師や理学療法士の話聞く生徒たち